

暗闇の格闘

難民審査の実態

BGM⇒Feral Chase

タイトル投影

役 者 : 担当審査官
審査員 A
審査員 B
警備員
難民申請者

計 : 5 名

必要機材 : マイク、音声措置、

【第一幕】

舞台設計 : 机 1 つ、イスは 2 つ (←難民 1 つ、担当審査官 1 つ)

BGM⇒Stoneworld battle

～ 警備員が、申請者が収容されている部屋に歩いてくる ～

【警備員】

(硬い表情で) ビルマのアウンさん、難民の調査があるから、こちらへ来てくだ
さい。

【難民】

はい、なんですか？

【警備員】

あなたは呼びだされているから、早くしなさい！ (半ば怒り気味)

【難民】

それは私に聞いてもわからない。はやくしなさい。

【難民】

はい、分かりました。

～ 審査室に難民審査官が待っている。難民が入室する。椅子に座る。 ～

【担当審査官】

今日から二日間にわたり、あなたの難民申請について審査します。

【難民】

よろしくお願いします。（丁寧に伝える）

（担当審査官は、無表情に対応する。）

【担当審査官】

まず、あなたの生年月日、出身国を話してください。

【難民】

私は、68 年 2 月 14 日生まれで、ビルマの出身です。

【担当審査官】

何時日本に来ましたか？

【難民】

私は、2001 年 10 月に日本に来ました。

【担当審査官】

それでは、なぜ日本へ来たのかを教えてください。

【難民】

はい、私は、1988 年に学生の一人として、民主化活動に参加しました。その後、ビルマではクーデターが起き、自分が私の仲間がたくさん逮捕されました。私も、命の危険を感じました。だから日本に来ました。

【担当審査官】

具体的にどのように迫害を受けたのか、説明してください。

【難民】

当時、高校生だった私は友人と、ビルマの民主化のため、デモに参加しました。その後、友人が次々に逮捕され、監禁され、拷問を受けました。彼らの家族もビルマ軍政府に脅迫を受けました。私は、自分の身も危ないと思って、タイとの国境の近くまで逃げました。そして、カレン族が住んでいる地域にかくまってもらって、10年間そこで過ごしました。でも、いつまでもそこにいることが出来ず、まず韓国へ行き、そこで少し働き、その後船で日本に密入国しました。

【担当審査官】

えっ、あなたは、韓国でも働いていたのですか？ということは、日本にも働きに来た、ということですね？

【難民】

いいえ。韓国で働いたのは、日本に来るためのお金が必要だからです。

【担当審査官】

でもねえ、韓国でも難民申請が出来るのに申請をしないで、どうして日本で難民申請をしたのですか？

【担当審査官】

それは、日本には仲間がいて、いろいろ支えてくれるからです。

【担当審査官】

へー、そうなんですか。（疑わしそうに）

【難民】

私は命の危険があるので、難民申請をしたのです。

【担当審査官】

難民申請はやめなさい！難民申請は簡単には認められないんですよ。無駄ですよ、無駄。大体あなたは仕事をしに日本へ来たんだろうし。

それにねえ、あなたが難民申請をしたら、その事が新聞に載って、ビルマにいるあなたの家族がかえって危険になるだけです。

【難民】

私が働きに来たなんて、どうしてそんなふうきめつけるん；風にきめつけるん；決めつけるんです

か？

私は母国で殺されそうになったので日本に逃げて来たのです。

担当審査官：

嘘をつくな！あなたは単に経済的な目的で日本へ来ているんじゃないか！

難 民：

いえ、違いますよ（感情を入れる）。私の話を信じてください。私は、母国で政治活動をしたから命が危ないのです。だから日本で難民として保護してほしい、とお願いしているのです。助けてください。

【担当審査官】

ところで、日本ではどこに住んでいる？何の仕事をしている？

【担当審査官】

大阪に住んでいます。自転車の会社に仕事しています。

【担当審査官】

自宅から仕事場までの時間と方法は？地図として書いてくれないか？

【難民】

はい。（自宅から仕事までの経路を絵で描いて教える。その様子を（地図としてパワーポイントで投影）

【担当審査官】

わかりました。それでは、あなたの審査は、今日はここまでにします。

～ 審査終了、難民が収容されている部屋に戻る ～

難民審査状況について、舞台

【第二幕】

舞台設計：机 1 個、イス 3 個（難民審査員 1 名、審査官 2 名）

難民審査官と審査員 2 人がテーブルを囲んで座っている。

役者設定

担当審査官：難民に審査を行った人

審査員 A：難民認定に否定（2 人に分けること）

審査員 B：難民認定に肯定

【担当審査官】

この間、審査したアウンさんのことですが、本人は、1988年にミャンマー軍事政権に反対して、デモをしたりし、仲間が捕まって拷問を受けたので、タイの国境まで、逃げてきて、そこで、10年位隠れて過ごし、韓国に渡って、日本に逃げてきたと言って、自分が難民であることを主張していますが、この人の事について、それぞれ意見をのべて下さい。

【（否定）審査員 A】

私は、それは嘘だと思いますよ。ミャンマーのことで、去年あんなことがあったから、難民だと言ったら、誰でも認められると思って言っていると思いますよ。実際、韓国にいる時とか、ミャンマーの実家にお金送ったりしてたんじゃないんですかね。日本で稼いだら、そら、ミャンマーの国の10倍以上の給料がもらえるのだから、せっかく
;折角日本に来ていい生活が送れるのだから、帰りたくないでしょう。帰らないためだったら、ああいう外国人は何でもいいですよ。

【担当審査官】

アウンさんは当時、高校生だったみたいで、友人とビルマの民主化のためのデモに参加して、その後、友人が次々に逮捕され、拷問を受けたり、家族がミャンマー軍政府に脅迫を受けたりしたのは事実のようで、それで自分の身が危ないと思って、タイとの国境の近くまで、逃げて、カレン族の集住地域に、かくまってもらって、10年間そこで過ごしたという事実はありますが、どうですかね。

【（肯定）審査員 B】

私も、その事実は、大きいとおもいますよ。高校生の時、そういう体験をしているのは、事実のようだし、10年間も隠れていたというのも、尋常じゃないしね。日本に密入国して来たのも、命からがらという感じがしますね。だから、経済目的の密入国というのは、少しうがった見方のような気がしますね。

【（否定）審査員 A】

でも、そんなこと言ったら、そういう人はたくさんいるわけでしょう。全員認めて

いたら、日本の国は、外国人であふれかえってしまいますよ。しかも、外国人は、すぐ犯罪を犯すし、この間、広島で、外国人が、小さな女の子に性的暴行を加えて殺した事件があったでしょう。それこそ、外国人が日本のあちこちに生活するようになったら、そんな事件があちこちで起こりますよ。小さい子供をもったお母さんは、心配で仕方ないじゃないですか。

【（肯定）審査員B】

それは外国人に対して、アウンッと偏見が大き過ぎると思いますよ。広島の事件は不幸な事件だったけど、そういう事件は、外国人だけでなく、日本人も起こす訳だから、日本の犯罪の統計資料を見たら、一概に外国人が多いという事は言えないと思いますよ。担当審査官は、直接審査しているのだから、その人の人となりを判断すべきだと思いますね。

【担当審査官】

私が審査した時は、非常に真面目な青年という印象を受けましたけどね。

【（否定）審査員A】

でも、それは、担当審査官に審査されているから、いい人の振りをしているのでしょう。やはり、難民として認めてもらうためなら、外国人は何でもしますよ。ほら、外国人のカードの詐欺犯罪とか見たら分かるけど、頭がよくないと出来ない犯罪ですよ。そういう犯罪を平気で起こすんだから、日本の審査官を騙すことなんか、簡単な事ですよ。

【担当審査官】

そう言われれば、もともともありませんな。

【（肯定）審査員B】

Aさんはすぐ犯罪がらみで外国人を判断するけど、そのところからはずれて、もっと事実を目を向けてみるべきじゃないかなと私は思います。

【担当審査官】

難民であるという資料については、当時の政治状況はありますが、アウンさんがミャンマー政府に狙われているという証明はありませんね。

【（否定）審査員A】

そうでしょう。そんな風に軍政府に狙われているのは、一部の幹部だけです。まだ年も若いし、そんな有名人物でもないんだから、ミャンマーに帰っても大丈夫ですよ。本人が勝手に怯えているだけじゃないですか？

【(肯定) 審査員B】

でも、もしこれで強制送還して、ミャンマーに帰って処刑でもされたら、日本政府は国際的に批判を受けることになりますよ。

【担当審査官】

そうなんです。そういう事が起こると判断した私にも責任があることになって、大変なことになるのですね。

【(否定) 審査員A】

そんなことはないですよ。それにそんな有名人じゃなければ、マスコミも取り上げませんし、もし何かなっても、マスコミに明らかににはならないでしょう。ミャンマー政府も困るから報道しないし、見捨てられるでしょう。

したら、日本から出て行ってくれて、私たちも助かるじゃないですか。

【(肯定) 審査員B】

それは人道的に問題になりませんか。日本は、難民条約に調印しているのですから、ある程度はその条約を守らないといけないのではないのでしょうか？それに、送還してはならないし。(おそろおそろ、弱気で提案する。)

【担当審査官】

いやいや、難民条約や人権法については、今は考えないでおきましょう。それよりも、日本国政府の立場で考えましょう。日本の法律で処理しておけばいいでしょう。やはり、この件も不認定にしましょう。その間、収容所でぶち込んでおけばいいですよ。これで諦めて、国へ帰るでしょう。皆さん、どうですか？(2人の審査員に確認する。) この裁決でいいですか？

【(否定) 審査員A】

わかりました。不認定にしましょう。

【(肯定) 審査員B】

いやでも、

【(否定) 審査員 A】

そやって一人一人に掛けている時間なかないよ。

【担当審査官】

では、不認定、ということでいいですね。

皆がうなずくが審査員の B が不満げにうなずく。

(解散)

舞台設計：机 1 個、イス 3 個（難民審査員 1 名、審査官 2 名）

～ 難民を呼び出し、不認定理由を話す ～

警備員 2 人と難民のアウンさんが入ってくる。

【理由】

担当審査官

あなたは、韓国で難民申請をせず、日本へ不法に入国した。この事実は、あなたが経済的な目的で日本へ来たことを証明している。

しかも、あなたがビルマで民主化運動をしていた明らかな証拠は見あたらない。従って、あなたが帰国しても、生命の危険がない、と判断する。

以上の理由で、あなたの難民申請は、不認定とする。

なお、この裁決に不服がある場合、1 週間以内に異議の申し出を申請できる。

～ 不認定の資料をパワーポイントで投影する ～

【審査員 A】

以上のように、慎重な審査の結果、あなたの難民申請は認められませんでした。

退去強制令書を発付します。同意して署名をしてください

～ 難民に同意の署名を求める ～

【難民】

いやです、私は難民です！ なぜ日本は私を難民として認めないのですか！ 国へ帰ればつかまり、拷問され、殺されるのです！

[難民は署名しない](#)

【閉幕】

【終了】

【設備】

舞台設定：

部屋から見える月の明かりをパワーポイントで投影

PP：収容所の風景を投影する。

～ 難民が自分の部屋から月の光を見て自分は何時出られるのかを分からぬま
までで待っている姿で幕を下ろす。～

BGM⇒Interloper

効果音（BGM として利用）